

# 第1回登別市立図書館整備検討委員会 議事録要旨

- 日 時：令和6年10月4日（金）午後6時30分～午後8時50分
- 場 所：登別市市民会館 大会議室
- 出席状況：委員 16名（欠席） 1名  
行政 9名 教育長  
教育部部長  
教育部参与  
教育部次長  
教育部図書館長  
教育部図書館主査  
教育部図書館主任  
総務部企画調整グループ総括主幹  
総務部財政グループ総括主幹  
傍聴 1名

## 1 開会（図書館主査）

### （1）資料の確認

- ア「第1回 登別市立図書館整備検討委員会 会議資料」
- イ 別冊資料「登別市の財政状況」
- ウ「中央地区のまちづくりに関する提言書 中間報告」
- エ「整備検討委員会会員名簿」
- オ「登別市立図書館のめざすもの」
- カ「令和6年度図書館要覧」（図書館協議会委員には配布済みのため省略）

## 2 教育長挨拶

## 3 委員自己紹介

## 4 本検討委員会についての説明（図書館長）

- （1）本委員会は、登別市立図書館のハード面の整備について検討することを目的としている。
- （2）本委員会は、図書館協議会や市内の各団体、一般公募の皆様で組織されている。
- （3）具体的な取組みとしては、登別市中央地区まちづくり協議会から提言があった「図書館がアーニスへ移転すること」の是非について検討していただきたい。
- （4）提言を受け7月に開催した意見交換会では、賛否様々な意見をいただいた。教育委員会としては、できれば年内には明確な方向性を見出したいと考えている。

## 5 委員長及び副委員長の選出

## 6 説明事項

- (1) 図書館の今後に関する協議について
  - ・ 図書館のあり方検討の経緯とこれまでの経過
  - ・ 登別市中央地区まちづくり協議会からの提言と意見交換会の結果
- (2) 新図書館の建設について
  - ・ 新図書館建設の長所と課題
  - ・ 登別市の財政状況
- (3) 今後の進め方について

### (1) 図書館の今後に関する協議について（図書館長）

- ア 現在の図書館は開館から50年以上経過し、運営上様々な課題を抱えているため、今後の図書館について検討を始めることとした。
- イ 図書館が抱えるハード面の課題について説明。
- ウ 4月に開催した図書館協議会において、どのような機能や空間が図書館に必要となるか、委員からご意見をいただいた。
- エ 6月に登別市中央地区まちづくり協議会から市に対して、図書館のアーニス移転に関する提言があり、この提言について、7月に中央地区、登別地区、鷺別地区の3会場で図書館についての意見交換会を開催した。
- オ 登別市中央地区まちづくり協議会からの提言について説明。
  - a この協議会は、市役所本庁舎移転に伴い、現庁舎跡地の利活用を含めて、中央地区のまちづくり、活性化を考えている団体である。
  - b 老朽化の問題が浮上している図書館が移ることによって、商業施設の活性化、中央地区の活性化に繋げることも一つの案であるという、まちづくりの観点からの提言である。
- カ 意見交換会の結果について説明。
  - a 意見交換会では、図書館の課題点を説明し、課題解決方策として、新館の建設、既存施設への移転、現施設の継続使用の3点について、それぞれの長所と課題を説明した。
  - b 参加者からは、現在の図書館の使用率や利用者の年代層、アーニス内の移転場所や賃料、他の公共施設の活用などについての質問が寄せられた。
  - c 商業施設内に図書館を設置することの是非、図書館の静寂性とアーニスの賑わいと両立、図書館整備の際には若い世代が活用できる施設にしてほしいなどの意見が寄せられた。

### (2) 新図書館の建設について

#### ア 新図書館建設の長所と課題について説明（図書館長）

- 長所) a 部屋配置などの自由度が高く、理想に近づけやすい。
- b 施設規模について、ある程度自由に考えられる。

- c 耐用年数が長い。(50年程度)
- 課題) a 約20億円の試算となり、建設費用が高額である。
- b 借入れに必要となる頭金が不足している。
- c 補助制度もなく、市役所本庁舎や消防庁舎の借入金を支払っている間は、返済の上乗せは困難な財政状況である。

イ 登別市の財政状況について説明(財政グループ総括主幹)

- a 公債費(借金の返済額)の試算について説明。
- b 新築と移転案の費用負担の比較について説明。
- c まとめとして、少なくとも、市役所本庁舎建設事業などの償還が終了する令和20年度代前半までは、新たな大型事業への着手は難しいと言わざるを得ない状況であり、仮に図書館を新築とした場合、新図書館建設基金の残高を活用しても、その財源のねん出は大変難しい状況である。

7 各委員からの主な意見・質問(下線部が市側の回答)

- (1) 今後の委員会の日程について、どのくらいの時間があるのか。結論はいつまでに出すのか。  
→出来れば年内という目処をもっているが、それまでに決めるということではない。
- (2) 論点をもう少し整理してほしい。新築・移転等の話なのか、財政の話か、図書館の必要性について議論をしたいのか的を絞ってほしい。  
→初回はこれまでの経過について説明し、説明内容について質問を受け、議論については次回以降、テーマを設定して行いたいと考えている。
- (3) 既存施設への移転の場合、国から交付金が出る理由について知りたい。また、アーニスに移転した場合は、20年後に新築を建てないといけないので、そこも含めて50年での金額が知りたい。アーニスに移転した方が高くなるのではないか。  
→交付金については、国の都市構造再編集集中事業交付金というものがあり、ハード面を一斉に整備することでまちづくりを活性化させるという趣旨の交付金が、今回にあたるであろう。移転して20年後については、新築するのか、違う方法を考えるのか、その時に考えなければいけない部分だと思う。今は20年の試算を出させていただく。金額も、今予定している面積から算出するしかないと考えている。
- (4) アーニス自体があと20年しかもたないそうなのに、そこへ移転する案はなぜ出したのか。例えば、他の既存建物に図書館を分散するなどして、図書館を新築するまでに色々な方法があるのではないか。また、市役所本庁舎と併設して図書館をなぜ建てなかったのか知りたい。  
→市役所本庁舎に併設してなぜ図書館を整備しなかったのかについては、土地

の問題、また市役所本庁舎を建設するのに70億円、プラス公共が図書館規模の新築を建てるとなると22億円程度かかってしまう。基本的に図書館に対しての補助金はないので、財政的に厳しい状況であるという事情があり、本庁舎単体の建設となった。

- (5) これまでも様々な問題があったが、長年図書館の大切さが理解されていなかった。図書館は何のためにあるのかという原点を多くの方が関心がない。そういう人が、また新たな問題を議論するのは、不安であるし疑問だけである。本来どうあるべきかの議論がなおざりにされたまま、まちづくりの委員会に出たからといって、図書館とまちづくりを一色たんに議論するものではない。これまでの図書館の歴史を情報共有しなければ、次のステップには行きにくいのではないか。
- 何がずっときているかという、財政的な裏付けがとれない。お金がない中で良い図書館をとということで、アーニスの情報センターを分館にしてやってきたわけだが、市の財政にも優先度があり、また、市民全体の声として、図書館を作ってほしいという大きな運動になっていなかった。昨年1年間で、図書館を使った市民の実数は住民の7%であり、93%の市民は1回も図書館を使っていない実情がある。一方、現在の図書館は駐車場、建物に色々な問題がある。日本図書館協会の統計によると、過去20年間に日本の図書館でできたのは、64%が複合施設である。理由は、予算や人口減から単独ではもう建たない。現在の図書館も改修だけの問題ではなく、もう何とかしないとイケない時期である。過去20年間にできた図書館の約1割が商業施設に入っているので珍しい。現に成功している図書館も多くあるので、どういうやり方があれば商業施設に作れるかというのを話し合っていきたい。アーニスありきではないが、アーニスはチャンスだと思っている。
- (6) 移転について賛成と反対の意見の発言が多いが、中立のものは巻き込まれているのか、どっち派なのかわからないで聞いている。図書館が何のためなのか、各委員からアイデアが聞けたり言わせてもらえる場だと思っていた。図書館の未来を本当に語るのかなと思ってしまう。
- (7) 近隣の市町村でも商業施設と図書館が一緒の例があり、併設された図書館はあり得るだろうと思う。登別の豊かな風土や歴史に立脚した図書館が欲しいと思っている。アーニス移転もかまわない。図書館としての機能や基調となるねらいをしっかりそこで出来れば一番良い。
- (8) 7月に実施した一般市民に対する意見交換会では、賑わいの商業施設に静寂を必要とする図書館を入れるかどうかの話題が多かった。そこが解決できれば、今の図書館の古さ具合からすれば移転は良いのかなと思う。数十年前と今では、図書館や本に対する考え方が違っており、時代に合わせたやり方の方が良いし、

そういうところを議論したい。

→本館とアーニスで音量調査をする予定である。調査結果も、この委員会でお示しできればと思う。

(9) アーニスでは夏まつりの際に近隣から音に関してクレームが入っている事実が一点。また、音量調査に関して希望があり、アーニスでは吹奏楽の団体などの行事が行われることがあるので、そういう時の調査も併せてしてほしい。

(10) アーニス移転案を出されても、今の状況しか知らないので検討材料に入れられない。プロの方が良くしてくれるのであれば、納得するかもしれない。音もそうだけど、アーニスに移転した場合の理想像を見せてほしい。

(11) 次回はアーニス移転ありきで考えを持ってくるべきか。それとも、新築、移転等を含めて考え、図書館のあるべき姿を議論する場なのか。財政のことを考えると、全市民の共感が必要だと思う。図書館に行かないものも税金を払うので、一定の共感が必要であるから、そこを含めての議論を先にすべきではないかと思う。論点を整理して2回目に進めたほうが、深掘りして意見を持ってこれるが。

→今回の発端となったのが、まちづくり協議会から図書館をアーニスへ移転したらどうかという提言をいただいたところである。教育委員会としては、皆様同様、新築がベストという思いは変わらないが、財政状況も厳しく、新庁舎の借金返済に図書館の借金を上乗せすることは、登別市の財政状況として体力的に持ちませんということであった。もし新築となれば、少なくとも20年間は建てられない。今のところで持ちこたえるか、それとも、まちづくり協議会からの提言を活用することにより、我々としてもベストではないにしてもベターな図書館が作れるのではないかと期待を持っている。理想の図書館の話も勿論必要ではあるが、次回以降、例えばアーニスに移転するとしたら交付金が出るので、どんな良い図書館を作れるのだろうか、どんな感じなのだろうかという話もできるのかと思っている。最初に出してしまうと、アーニス移転ありきということもあるが、我々としても良い提案をいただいたと思っている。図書館の職員がこれがチャンスだと話していたので、乗りたい気持ちも当然ある。だが、アーニス移転が反対であれば、そういう話になっていく。図書館に関しては、交付金や有利な起債などなかったことがあり、今まで手がつけられなかったというのも事実である。今回はチャンスではないかと思っている。

(12) 図書館が建った時点ではいつかは古くなるのは分かっている、ここまできてしまった。21人委員会が26年前にあり、そこからも話が進んでいない状態で、アーニスの話が出て、もう危ないから移転しようというのは分かる。これは、一時避難としてのアーニス移転なのか、その後は、新図書館を建てる考えがあるのか。

→市の公共施設だが、どこも老朽化が進んでいる。登別市では建てたは良いが、メンテナンス費用や、50年後を考えて積み立てることが出来ない状況が続いている。他の公共施設全てがほとんどそのような状態で、その時々に対応しか出来ていないのも事実である。アーニス移転は、図書館が危ないから移転しようということだけではなく、例えば、バリアフリー問題、狭隘や、3階に分かれていて探しづらいなどの大きな課題を、アーニスに移転したら解消できるのではないかと提言をいただいた。まちづくりの視点など、目的は違うかもしれないが、図書館サイドとしては、今持っている課題が解消できるということで、それに期待をしている。教育委員会としては、新庁舎の借金が終わり、ある程度の財政状況が落ち着いた段階においては、複合施設になっているかもしれないが、建て替えはしたいと思っている。図書館の建設基金も、アーニスに移転したとしても使わず残し、いずれは登別市にふさわしい図書館を建てたい。

- (13) 委員長と教育委員会で会議の在り方について協議したうえで、2回目以降の会議を設けてほしい。皆さんに誤解を与えるのは、教育委員会が出す資料が、総務部マターの資料であり、まちづくりとかのことばかりである。図書館は教育施設であって、まちづくりありきで挑まれると違和感があるし、教育委員会として今後どうしていくのか基本姿勢が見えない。ついては、参考資料を要求したい。(「登別市新図書館構想21人委員会の資料」、「登別市立図書館が考える新図書館デザインプラン」の素案、「7月に実施した市民との意見交換会の内容について」)。新築でも移転でも良いが、どれだけ他の移転先について検討したかどうか提示してほしい。

→次回の会議で用意したい。

- (14) 登別の将来を見据えて人口動向の予想と人口動向による図書館の利用の変異について資料がほしい。(年齢別くらいで出るのであれば)

- (15) 登別市で図書館の設置以上に優先される施設は何か知りたい。市以外からも、国や道としてでも良いが、こういうことをしようというものがお金に反映されて出来る出来ないものを知りたい。

→その優先順位はお示しするのは難しい。その時々政治状況などにより、かなり変わってくる。今一番は何かというと、国の方で出している子育て施策だと思いが、その他も、高齢者施策や防衛などあり、市としても、子どもファーストと打ち出したが、その中で何が優先されるかということ難しい。補助金や有利な起債によっても優先順位も変わってくるし、提示するのは困難であるということでご理解いただきたい。

- (16) 資料の中で、新築予算の内訳を知りたい。伊達市がなぜ6億円で出来たのか。隣町が出来ていて、うちはどうなのかというところで。

→次回、その話も含めてさせていただきたいと思うが、最初に出したものは、平米単価を掛けているので、だいたいの目安というくらいにお考えいただきたい。伊達市も今は上がっていると聞いている。大前提としてあるのは、借金を上乗せして払える体力は、今の登別市にはないということをご理解いただきたい。

(17) トピックが絞られていない中で、ほぼアーニスに移転するかしないかの話になっている雰囲気、また、最初のテーマである既存施設とか新設の話になると、次回も同様の話し合いになるのではないか。

(18) 論点として、もうアーニス移転ありきの話にした方が良いのではないか。今日良かったのは、図書館の思いというのを初めて知った。資料だと、市全体の財政の話で、ちょっと論点がわからなかったが、思いを聞いて、20年後に動けるかもわからないという話を聞いて、こういう話が出た時が、実は新しくするチャンスかもしれない。今動くとしたらアーニスしかないと言ってくれた方が話しやすいのでは。新築は出来ないということで、アーニス移転の話をもうした方が良いのでは。

→教育委員会として、やはりアーニス移転の提言は、本当にありがたいと思っている。その中で出来るものがある。次回は、アーニス移転するのかどうか話させていただいてよろしいでしょうか。

(19) <(18)の市の回答に対して> 反対。これまでも新しい図書館をいつ建てるのか質問してきた。お金も積み立てているのだから、建ててくれというのに決まっているのでは。行政の怠慢ではないか。本来あるべき図書館像がここにはない。行政に不信感を持っている。出来る出来ないは別として、どういう図書館が市民は必要としているか、そういうものがないままに、行き当たりばったりの施策を立ててもらったら、納得がいかない。

(20) <(18)の市の回答に対して> なぜ、アーニスありきなのか。移転先をどこまで検討されたのか。市民の声を拾い、検討した中で、結果アーニスならわかる。移転か新築かというのは、そもそも基本的な考え方があれば、それに近いところにすみかを作るというのが流れではないか。

次回以降、お話のありました資料や、別の場所をリサーチなどについて、日程はタイトであるが、だせる範囲でお示しさせていただきたい。